

コウベモグラ (名古屋城外堀の個体群) *Mogera wogura* (Temminck)

【選定理由】

国内では、本州中部以南、四国、九州ならびに隠岐諸島などの属島に広く分布し、県内での分布も広いが、通常は地上へ出ない地中性の生態特性が強いため都市化の進行に伴って個体群の分断がおきやすい。島嶼部では生息個体数も限られ、また外部地域からの移住機会も偶然以外には通常あり得ないために地域個体群として絶滅の可能性がある。地中性のコウベモグラにとって、名古屋城外堀 (名古屋市中区) で発見されたコウベモグラは都市という「海」に囲まれた「陸の孤島」に住む個体群で、常に絶滅の危機にさらされている。

【形態】

体重 48.5~175.0g、頭胴長 125.0~185.0mm、尾長 14.5~27.0mm、前足長 16.8~25.5, 22.0~33.0mm (爪を含む)、前足幅 16.0~25.0mm、後足長 16.5~24.0mm、頭骨最大長 33.0~42.1mm。体の大きさはきわめて変異に富み、九州西南部 (種子島、屋久島を含む)、九州山地、対馬などの小型個体群と本州中部の大型個体群では体重で2倍ほどの差がある。歯式は I3/2, C1/1, P4/4, M3/3=42、脊柱式は C7+T14+L5+S6+Cd12=44 (子安・織田, 2009 など)。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山市、一宮市、稲沢市、岩倉市、北名古屋市、名古屋市、瀬戸市、尾張旭市、東郷町、豊田市、岡崎市、安城市、西尾市、設楽町、新城市、豊川市、豊橋市、田原市など県下に広く分布する (宮尾ほか, 1984; 愛知県商工部万博誘致対策局, 1996; 小鹿, 2005; 子安・織田, 2009; 子安ほか, 2016; 子安, 2018)。弥生時代中期の朝日遺跡 (清須市朝日貝塚) で上顎骨・上腕骨など4点が出土している (山崎・織田, 2005)。

【国内の分布】

本州南西部、四国、九州および隠岐諸島、対馬、五島列島、小豆島、淡路島、種子島、屋久島 (Kawada & Yokohata, 2015)。

【世界の分布】

日本固有種 (Kawada & Yokohata, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

低地から低山帯の農耕地、草原に多く、森林内の生息密度は低い。地下にトンネルをつくり繁殖期以外は単独のナワバリをもつ。昆虫類、ミミズ類が主食で、秋には植物の種子なども食べる。通常は春に1回繁殖し、2~6頭の仔を産む。寿命は3年余りだが、3年以上生きるものは稀 (子安・織田, 2009 など)。

【現在の生息状況／減少の要因】

名古屋城外堀 (名古屋市中区三の丸の犬津橋周辺) にコウベモグラの生息することが発見されたのは2002年5月のことである。その後の調査での捕獲個体も含めると雄4頭、雌5頭の合計9個体が捕獲されている (植松ほか, 2004)。この個体群は市街地に囲まれて隔離されており、生息範囲も小さいので構成する個体数も少ないと考えられ、特段の要因がなくとも絶滅の可能性がある。

【保全上の留意点】

名古屋城外堀のコウベモグラの生息地は大半が斜面であり、岩礫で構成される底面 (かつての瀬戸電気鉄道外堀線の軌跡) には生息の痕跡が認められない (植松氏私信)。したがって、この個体群が現在の外堀全体に生息していると見なすのは誤りで、きわめて脆弱な生息環境であることを認識し、常に個体数減少をもたらす要因を排除するためのモニタリングと保全策が必要である。

【特記事項】

名古屋城外堀のコウベモグラは日本最大とされていた本州中部の大型個体群よりさらに大きな体をもつ、日本でも最大のコウベモグラと考えられていた (植松ほか, 2004)。安城市里町の農地では、この個体群とほぼ同じ体サイズの個体が捕獲されている (風間ほか, 2014)。

【引用文献】

愛知県商工部万博誘致対策局, 1996. アズマモグラ・コウベモグラ. 瀬戸市南東部地区に生息する生物の多様性に関する調査, pp.26-29. 愛知県商工部万博誘致対策局, 名古屋.
Kawada, S. & Yokohata, Y. 2015. *Mogera wogura* (Temminck, 1842). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.36-37. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
子安和弘, 2018. 人家から奥山まで生息する哺乳類. 新修豊田市史 別編 自然, pp.586-603. 豊田市, 豊田.
子安和弘・織田銃一, 2009. コウベモグラ (名古屋城外堀の個体群). レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.91. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝, 2016. 哺乳類. 豊田市生物調査報告書<分冊その3>, pp.337-367. 豊田市, 豊田.
風間健太郎・風間麻未・立川佳晴, 2014. 愛知県安城市で捕獲された日本最大サイズのコウベモグラ *Mogera wogura*. 三河生物, 6: 57-60.
宮尾嶺雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
小鹿登美, 2005. 愛知県安城市の哺乳類の記録. マンモ・ス特別号, (7): 4-9.
植松 康・酒井英一・高田靖司, 2004. 名古屋城外堀で採集されたコウベモグラの体の大きさ. 第36回成長談話会大会, 抄録集: 10.
山崎 健・織田銃一, 2005. 愛知県における遺跡出土の食虫類・齧歯類(縄文時代~弥生時代). マンモ・ス特別号, (7): 10-16.

(子安和弘・織田銃一)

県内分布図

